

第5回岐阜県少子化対策専門家研究会開催結果

1 日 時

令和5年3月24日（金） 10時00分～10時30分

2 場 所

Z o o mによるW e b会議

（事務局配信会場 県庁14階 会議室1408）

3 出席者

<委員>

岩澤 美帆 （国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部 部長）
中村 紘子 （株式会社OKB総研 調査部 主任研究員）
（座長）松田 茂樹 （中京大学 現代社会学部 教授）
松波 匡宜 （株式会社十六総合研究所 主任研究員）

以上4名

4 議事

第4次岐阜県少子化対策基本計画中間見直しの結果について
令和5年度の少子化対策事業について

5 議事要旨

別紙のとおり

第 5 回岐阜県少子化対策専門家研究会・議事要旨

1 開会

- ・事務局からあいさつ

2 議事

第 4 次岐阜県少子化対策基本計画中間見直しの結果について

<事務局>

- ・第 4 次岐阜県少子化対策基本計画中間見直しの結果について説明

令和 5 年度の少子化対策事業について

<事務局>

- ・令和 5 年度の少子化対策事業について説明

※質疑応答等

<岩澤委員>

- ・少子化対策について、様々予算が組まれているが、これらは毎回議論されて組まれていくものなのか。

<事務局>

- ・予算は基本的に、事業効果等を含め毎年検討をした上で、翌年度予算の要求を行う。
- ・継続をしていくことが重要な予算もあり、そのような観点も含めながら見直しを図っていく。

3 その他

各委員からのご挨拶

<岩澤委員>

- ・研究会を通して自治体がどのように施策を検討しているか把握することができ、大変勉強になった。
- ・少子化の問題は幅広く、ある意味で「子どもが生みやすい社会」「子どもを生みたい社会」というものは、行政が目指す地域社会とイコールであると感じた。
- ・少子化の取組みは県の中でも中心的なものであり、様々な部署と連携しながら進めていくことで、行政そのものが改善されていくのではないかと感じる。
- ・出生率の数値等で施策を評価されてしまう傾向があると思うが、暮らしやすさも重要な成果の 1 つであるため、幅広い視点で評価を行っていくと良いのではないかと。

<中村委員>

- ・研究会を通して、少子化の状況に対する分析や意見を伺い、岐阜県の少子化の現在地について、より多角的に考えることができた。
- ・新年度の施策について、若い世代をはじめ幅広い人材に岐阜県への移住を促す取組みが盛り込まれている点が印象的に感じた。
- ・少子化対策は出生率の上昇や、出生数の増加に目が向きがちではあるが、少子化対策の取組みを通じて、多様な価値観を持つ人材が岐阜県内に集まり、単なる自然増や社会増にとどまらず、県全体で次の世代を育てていくという環境が生まれていくことを期待している。

<松田委員>

- ・中京圏は経済力の強いところであり、今後も発展していく地域であると思っているが、そのためには、東海三県それぞれが少子化対策を行い、人口減少を止めていくということが大切である。
- ・我が国の社会及び経済の状況は、刻々と変化してきているため、柔軟に対応していく必要がある。
- ・また、国の少子化対策が大きく拡充され、岐阜県にもプラスの影響となり、更なる対策の拡充が期待されるだろう。
- ・岐阜県で柳ヶ瀬再開発が行われた点について、魅力的な商業施設や住宅供給が行われることは若い世代が岐阜県を住む場所として選択する効果があり、周辺への波及効果も期待できると考えている。

<松波委員>

- ・岐阜県の少子化対策を考える中で、岐阜県はポテンシャルを秘めた県であると感じている。
- ・また、少子化対策は1つの施策を取組むものではなく、幅広く施策を行うことが重要であると研究会を通じて感じた。
- ・岐阜県は柳ヶ瀬再開発やJ R岐阜駅前再開発など、様々な分野で子育てに対して住みやすいまちをつくれることは魅力であり、郊外にも山など岐阜県独自の地域資源があるため、そこで起業家が新しい産業を立ち上げることも考えられる。
- ・更なる少子化が対策の取組みを岐阜県に期待している。

4 閉会